

CO₂ 排出量実質ゼロで羽田からNYへ！

お客さまと共に目指す サステナブルな空の旅

2023年9月、ニューヨークで開催された国連SDGサミットに合わせ、JALグループは羽田発の定期便において「JAL2030」サステナブル・チャレンジフライトで行く、「ニューヨーク」を実施し、9月14日〜20日の期間中、計7便にご搭乗のお客さまに、サステナブルな未来の旅を体験いただきました。

これは、2050年までのCO₂排出量実質ゼロ実現に向けてJALグループが目指すサステナブルな航空輸送へのトライアルです。私たちの挑戦の一端をご紹介します。

まずは「CO₂排出量削減」の施策。運航の工夫に加え、全燃料の11%にSAF（持続可能な航空燃料）を使用することにより、フライトの約9%に相当するCO₂排出量を削減しました。また、過去のサステナブルフライト同様、「限られた資源

の有効利用」「DEI推進」「アクセシビリティの向上」「地域活性化」の観点でさまざまな取り組みを実施。お客さまには手荷物の軽量化や「JALカーボンオフセット」「JAL Meal Skip Option」の活用などのご協力をいただきました。チーフキャビンアテンダントの伊藤節子は、「お客さまと楽しみながら、未来の空の旅」についてコミュニケーションをとることができました。機内アナウンスや会話を通じて、フライトの趣旨をご理解いただけたと思います」と振り返ります。

こうしたサステナビリティを意識したサービスを継続していくことが重要です。持ち手は竹、ブラシには植物由来のナイロンを使用した歯ブラシはファーストクラスとビジネスクラスで、JALラウンジの使用済みコーヒー粉をアップサイクルして製造したクラフトジン「Re FLY」（リフライ）は、羽田発ニューヨーク

行きのビジネスクラスで体験いただけます。紙コップのふたや容器などが、順次紙製に置き換わっていることにお気付きの方もいらっしゃるでしょう。

JALグループはこれからも、サステナブルな空の旅をお客さまにご提供していくために、たゆまぬ努力を続けてまいります。

サステナブル・チャレンジフライトを終えて

私たちパイロットは上空から見た地球環境の変化を目の当たりにしています。今回あらためて、安全運航を確保しつつCO₂排出量を減らしていく重要性を再認識しました。運航本部 松並孝次

定期便での実施でしたが、機内では多くのお客さまにサステナブルなフライトに興味をお持ちいただけて大きな手応えを感じました。商品・サービス開発部 佐藤 菜々子

これから先もお客さまに気兼ねなくご利用いただくため、新たな制度や仕組みを導入することで、時代に合わせたその時々“最高のサービス”を実現していきたいです。CX戦略部 石川恭子



左記Webサイトでもサステナブル・チャレンジフライトについてご紹介しています。



機内食容器のスリーブ（紙帯）に、（株）ハラルポニーと契約する知的障がいのあるアーティストが描いた作品を採用。



ニューヨークへ出発されるお客さまをお見送りする社員の様子。



MSC認証品*を使用したサーモンいくら丼。再生プラスチックを100%使用した小鉢のふた。特殊冷凍技術を用いた規格外国産フルーツ。



JALラウンジの使用済みコーヒー粉をアップサイクルしたクラフトジン「Re FLY」。大豆由来の豆乳を使用したグリーンクラフト ミニカップ「豆乳チョコレート&マカデミア」。植物由来の素材を使用したスリッパ（上）と歯ブラシ（下）。

*MSC（海洋管理協議会）認証を取得した持続可能な漁業で獲られた水産物です。www.msc.org/jp (MSC-C-57989)

今回のテーマに該当する目標



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。